

学校関係者評価報告書

2022年度

自 2022年4月 1日

至 2023年3月31日

専修学校 厚生労働大臣指定・製菓衛生師養成校
日本菓子専門学校

目的

学校関係者評価委員会(以下、当委員会)は、日本菓子専門学校(以下、本校)の自己評価において、客観性・透明性を高め、学外の関係者より客観的・専門的な助言を得ると共に、相互の連携を促し、学校運営の改善への協力を促進する事を目的として、当委員会を組織した。

当委員会は、本校の自己評価を資料とし、関係教職員との意見交換等を通し、本校の学校運営・教育活動等について、検証および評価、助言を行う事を目的として実施している。

当委員会の委員は、本校の教育理念を理解し、菓子業界に精通した学外関係者を校長が選考し、委託をしている。

報告書は、2022年度の自己評価表を資料として、当委員会として評価および助言をまとめ作成したものである。

学校関係者評価委員

三浦 秀一 「日本菓子専門学校 校長」

大島 陽二 「レピドール洋菓子店 会長」

黒田 寛 「日の本穀粉 株式会社 代表取締役」

高澤 勉 「和菓子処 八洲 社長」

柳 正司 「パティスリー タダシ ヤナギ オーナーシェフ、
(公社)東京都洋菓子協会 会長」

和泉 光一 「アステリスク オーナーシェフ、
(一社)日本洋菓子協会連合会 指導委員」

学校関係者評価

1. 教育理念 「菓子業界の期待に応える人材づくり」

①現状における課題点

教育理念や人材育成、将来構想など学生などへの周知は概ねできているが、さらなる社会経済、業界のニーズを踏まえ、店舗経営を意識し、生産効率を考えた教育、授業など、実社会に社会人として活躍できるための、学校教育の方向性を考えることが必要である。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

菓子業界の発展と地域社会への貢献も含め、学校教育の方向性を拡大してほしい。将来的には、商品開発や、情報発信などについても学べる環境があると望ましい。

時代の変化、社会構造の変化は加速しているが、すべての会社がその変化についていけないわけではない。技術、理論の習得を柱に菓子業界に携わる社会人としての一般教養を持った存在の育成を目指してもらいたい。

教育の現場で最新の設備や環境を揃えるのはよいことですが、現実の就業先のギャップが生まれることも多いと思います。インターンシップとして現場に行き、ものづくりの現場と学校の環境の差を知り、恵まれている環境で勉強していることを知るという機会を設けると授業に取り組む姿勢も変わると思います。授業などで学ぶ際にも同じように伝えていただきたい。

就職率は100%となっているがその先の退職者、離職者を防いでいくことにもつながると考える。

2. 学校運営

①現状における課題点

運営方針、事業計画、人事、給与に関する規定などは、策定、整備されており問題ない。
今後18歳未満人口の減少に対応し、さらなる魅力のある授業内容の充実を目指していく必要があり、学生数に合わせて適切な人員配置をすべきである。
コロナ禍の収束に伴って学生以外の外部収入の取り組みの拡大。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

現在は問題がないが、各責任者は常により良く時代に沿った運営・体制づくりを目指していただきたい。
各局の間の情報共有・連絡を円滑にし、よりよい学生対応の充実が可能になるよう学生管理システム等で入学から在籍・卒業までの管理をトータル化できるよう推進してほしい。
若い力の創出と登用にも力を入れてほしい。

3. 教育活動

①現状における課題点

業界団体との連携を深め、WEB講習会や販売授業等の拡大を進めてより実践的な教育を組み込む必要がある。

現在実施している履修要項を毎年見直し、各科は時代や要望に合わせた対応魅力のある授業を進めていく。

学校という箱の中だけでなく、外に出てさまざまな体験ができる機会を作っているのは良いことであるがすべての生徒が体験できるわけではないため目標意識、競争意識をもたせる教育をしてほしい。

求人企業、業界団体、同窓会などと綿密な連携をとり、卒業生の活動状況と問題点を把握し、卒業後のキャリア形成への効果を把握し、次なる学校教育の改善につなげていく。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

産学連携による授業のさらなる充実、拡大を検討していただきたい。

外部に出たの体験をクラス全員の体験になるようにすること、体験だけで終わらせないよう発表報告を義務付けることで反省をする。そうすることで進歩が生まれると考える。

職員のスキル向上を更に進め、学生授業に反映させていただきたい。

学校内容をHP、SNSにて更に発信していき、学校の魅力と認知度向上をより一層行っていただきたい。

4. 学習成果

①現状における課題点

ハイテクニカル学科においてはより外部のコンテストや資格取得の成果が出せるように努める。求人企業、業界団体、同窓会などと綿密な連携をとり、卒業生の活動状況と問題点を把握し、卒業後のキャリア形成への効果を把握し、次なる学校教育の改善につなげていく。学校で学んだ知識が退職時までには使えず、ドンドン変わっていく時代であり、常にスキルアップが求められる為、学習のさらなる充実が必要である。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

継続して就職率100%を目指し、国家試験の合格率向上をはかる。
同窓会との連携をはかり、学校をPRしてほしい。
スキルアップしなくてはならない時代に合わせて、卒業生のフォローアップのための教育コースの開発などがあってもよいのではないか。

5. 学生支援

①現状における課題点

クラス担任制を設け、生徒の不安・異常をすぐに相談、対応できるようになっているが、精神的な面のケアは課題である。カバーできるような体制を整えてほしい。
奨学金に対しても十分対応できており、海外生徒に対しても、校内・私生活において孤立しない環境を作っている。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

高等教育修学支援新制度や校友会奨学金制度など制度の導入はできているがその周知をより深めてほしい。人種や性差別のない時代に対応できる生徒づくりを目指していただきたい。

6. 教育環境

①現状における課題点

年に1度の避難訓練を継続して実施する。避難訓練だけではなく、災害時の連絡や防災、水害対策意識の確認も行えると良い。（ポンプ、止水、消化器のやり方使い方、防災教室等）
災害時の自分の役割、特にその責任者が不在時に誰に変わるかを確認しておき、誰が最高責任者として指揮するか決まっているか、学校設備の危険物、期間箇所などを全員が理解しているか、避難場所もわかっているか、全員避難確認ができるか確認することが大事である。これを徹底してほしい。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

食料・水・用具などの備蓄・数量は十分である。期限等の確認を欠かさずお願いします。
オーブンなど、新しいものを導入されており、生徒にとって喜ばしいと思います。学生の勉強しやすい環境、使用機材、器具のリニューアルを心がけ、設備の法定点検等の実施についても継続して行っていただきたい。
近年、水害、地震などが多く、学生、教職員の防災に対する意識の再確認を行い、いざというときの安全確保に努めていただきたい。

7. 学生の受け入れ募集

①現状における課題点

学生募集活動は概ね適正に行われているが、まだまだ学校周知不足である。
留学生の就職率や企業理解が不足しており、留学生の就職がまだまだ低い。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

企業向けに説明会を開き、留学生の就職率向上をはかってほしい。
日本語学校への募集活動、本校での説明会の実施などを検討してほしい。

オープンキャンパスなどで、体験入学など、イベントを多く催している点は評価できる。
入学者へのPRについて、学校のポイントを明確にし、広報活動にて周知できるよう努める。
学生募集は間口を広げると経費がかかりすぎるので、入学希望者が探すメディアに集中してはどうか。
地域誌に学校のアピールをするなど、身近なものから国内外問わずのPRが必要。学校のセールスポイントを集約し、時代に沿ったスピードかつSNSなどの有効な手段を用いて人員募集に活かしてほしい。募集する原稿は入学希望者の知りたい情報を若い世代の感覚でつくられることを希望します。

8. 法令等の遵守

①現状における課題点

個人情報、システムセキュリティーのさらなる充実と見直し強化。両局間での連携・連絡・報告の強化。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

行政提出物のチェック体制及び確認。漏れや遅れがないよう徹底してください。
専門家をいれて常にチェックしてもらうことなども含め、ネットワークへの侵入を防ぐ体制整備を努めることが課題。

9. 国際交流

①現状における課題点

コロナ禍からの留学生の激減、生徒の海外交流の場が激減している。海外交流によって刺激を受けることができるので、オンラインや映像授業などで疑似体験ができると望ましい。

②学校関係者評価委員会からのご意見・ご要望

留学生の受け入れも適正に行われており、特に問題はない。

今後さらなる国際化に合わせて、留学生向けのオープンキャンパス等の告知や留学生を受け入れるための就職企業との連携を取る必要性を感じる。

留学生会のさらなる充実と、就職活動への結びつけ、職員のビザなどの理解を深めて活動を行えるようにする。

今後ますます格差社会となり、東南アジアの方が日本の洋菓子技術の習得に来日が増えることが見込まれる。各国の情報誌に学校のアピール広告を出すことも視野に入れる時代かもしれません。社会貢献、地域貢献、ボランティア活動等に支援を行えるよう努めることはもちろんだが、普段からの学生各個人の常識ある行動を心がけさせることが大切である。コロナで中止になっていたイベント（ドイツの来日研修や洋菓子科の学生への授業実施。3月の欧州研修旅行、留学）の再開を進めていく。

語学習得などの授業を組み入れるなどして国際交流により、より高い目標を持ってもらいたい。